



築理会 会報

2023 Autumn vol.72

東京理科大学工学部建築学科校友会

CONTENTS

2023年度 築理会総会報告

2P **共同宣言とデジタル名簿で新体制始動**

建築学科60周年記念行事

4P **激論「理大建築をどう強くするか」**

6P 国土交通省で働くOGOBの仕事の中身

8P ようこそ！ 10月29日ホームカミングデーへ

INFORMATION

- ・第18回ホームカミングデー（東京理科大学・理窓会共催）
- ・学生と卒業生交流イベント「先輩と語る2023」
- ・2024年 築理会新年会
- ・新任退任教員の紹介
- ・現場見学会（麻布台ヒルズ）を計画

築理会の最新情報を、HP、メルマガ、Facebookで配信しています。
築理会活動へのご意見・ご要望、会員の情報がありましたら
お寄せください。 chikurikai@gmail.com

「真朱」：田中 優也（建築学科3年写真部）

2023年度 築理会総会報告

共同宣言を経て名簿デジタル化へ新体制始動

5月27日土曜日、東京理科大学神楽坂校舎1号館17階講堂（ZOOM併用）で2023年度の築理会総会が行われた。オンラインを含めて50人の校友会会員が参加するなか、建築学科と校友会・築理会の相互連携を深める「共同宣言」がなされ、新会長はネットワークの要となる会員名簿「デジタル化」の方針を打ち出した。

今年の総会は築理会の新体制の船出でもある。2期4年会長を務めた佐野吉彦氏から石橋敦之氏に会長のバトンが渡され、新たな役員・常任幹事が選任された。

2022年度の活動報告では、会員間の相互連携の要となる築理会名簿を紙ベースからデジタルベースに切り替える取り組みの検討が進んでいることが改めて報告され、学科・在学生と共同で実施した「先輩と語る会」（11月に実施）、3月の卒業式の間を借りて行われた建築学科と築理会との「共同宣言」などの報告があった。この3月には建築学科の社会人コースから最初の卒業生が世に出た。「共同宣言」は、この節目をとらえて大学との結びつきをさらに強め、相互に連携することを目的としたものだ（このページの最後に「共同宣言」の全文を掲載）。

議案説明後に総会参加者からは、デジタル名簿に期待する声や将来に向けたサステナブルな体制づくりを望む声が上がった。

2022年度の決算・監査報告を経て、次期役員改選があり、石橋新会長が2023年度の活動計画を説明した。

佐野前会長が4年間進めてきた委員会活動や建築学科との連携など、これまでの骨格に肉付けしていく方針の下、会員のデータベースを皆で使いやすくするために名簿をデジタル化して再整備することを2023年の第一目標とするとの方針とともに、各委員会の活動方針が示された。

会員増と活動の広がりによって作業量が増えている事務局業務については外部委託化を検討する、活性化委員会は新たに地域や企業内での築理会会員の活動を目に見える形で顕在化させていく、情報広報委員会は

フェイスブックなどのSNSも活用して会員の輪を広げていく、学科連携委員会は新たに採択した「共同宣言」をもとに、建築学科との協力活動をさらに推し進めていく、などが主な方針だ。

名簿デジタル化の特別予算を計上

名簿のデジタル化については今期77万円の特別予算が計上された。薬学部の同窓会で導入しているシステムを参考に新たなデータベースシステムの構築を進め、今年6月にシステム開発業務を発注、12月にデータベース移行を完了、2024年4月からの運用開始を目標としている。

「共同宣言」の全文

東京理科大学工学部建築学科と、その同窓組織である東京理科大学校友会築理会は、以下の項目を目標として連携することを宣言する。

1. 東京理科大学校友会築理会（以下、築理会）は、東京理科大学工学部建築学科（以下工学部建築学科）が、建築界ならびに社会にとって有為な人材を輩出するために協力する。
2. 築理会は、工学部建築学科の卒業生が旺盛に活動できるよう、積極的に支える。
3. 工学部建築学科は、以上のような築理会の活動の意義を学生に伝え、卒業後の活動参画を奨める。



理科大建築の価値高めるための 「共同宣言」

佐野吉彦(前・築理会長)

東京理科大学工学部建築学科が築いてきたネットワークは、卒業生と母校の発展を支えている。2期4年の会長在任中、築理会の活性化を通して同窓会の存在感を高め、大学との結びつきをさらに強めることに留意した。3つのテーマ[会員相互の交流を活発化する]・[会員の活動を支援し、「理科大建築」のプレゼンスを拡大する]・[東京理科大学工学部建築学科と連携して教育貢献する]に従って、5つの委員会が運営を進めた。

昨年度の築理会は、リモート主体から少しずつ対面行事を再開するなかで、会報・ホームページ・メルマガの定期的な発行と継続的改善を進め、ネットワークの要としての充実を図った。昨年5月に会員名簿を発刊したが、今後「紙ベース」から「デジタルベース」に転換する方針を固めた。それは活動をいきいきと支える新たな基盤となるだろう。

学科と在学生との間では、「先輩と語る会」開催・「築理会賞」選定・「りぼん」支援を継続した。2023年は学科創設60周年であり、3月には社会人コースから第1回卒業生が誕生している。この節目に学科と築理会で「共同宣言」を採択し、築理会の年次総会では合同で60周年記念行事を開催した。これらの取組みを通じて、世代と立場を超えて「理科大建築」の価値を高め、社会に働きかけるエネルギーを獲得できたのではないかと。また築理会・野田建築会・2学科1専攻とともに卒業生の重要賞受賞祝賀会を開催し、「オール理大建築」連携企画にも取り組んだ。節目の年を機にさらに様々な協力関係が発展し、実を結ぶことを期待している。



▲佐野前会長

名簿デジタル化は ネットワーク加速の重要ツール

石橋敦之(新・築理会長)



▲石橋新会長

5月の総会で佐野前会長から会長を引継ぎました石橋敦之(第16期1981年卒)です。卒業して42年、ついにこの様な大役をお引受けする歳になったかと感じておりますが、前会長が整えた幹事・委員会組織や大学との連携体制を引継ぎ、築理会の一層の躍進を遂げてゆきたいと思っております。

さて、築理会の会員数も8500人を超え、新しい卒業生は58期生です。また、本学の卒業生の教授も増え、学生の男女比率も6:4ぐらいとなり、海外からの留学生も年々増えております。その様に变化する状況下、卒業生は様々な分野や場面で活躍し、成果を上げ、理科大建築の存在感は増してきています。

そこで、今年度の方針として、これらの会員の活動を顕在化し、益々の活性化を目指すことにしたいと思います。年2回の会報誌、HPやFB、Webマガジンなどを通じて皆様にお伝えしてまいります。

そして、これらのツールに加えて、今まで田中先生が築きあげてきた築理会のデータベースを将来の拡張性を鑑みて再整備してクラウド化することで、築理会事務局の事務作業の効率化はもとより、様々な会員活動のサポートができるものとしします。さらにこれをベースとして、昨年度末に発行した名簿のWeb化を行い、各自の情報の登録・修正や卒業生の情報がいつでも、どこでも検索して取り出せる環境を整えます。築理会ネットワークを加速させる重要なツールとなります。ご期待ください。



60周年記念行事・懇親会

「理大建築をどう強くする」をテーマに議論

2023年度の総会に続き、工学部建築学科創設60周年記念行事が行われた。大学院インターンシップについての学生発表、建築学科教員と築理会新旧会長によるクロストーク「理大建築をどう強くする」の議論があり、「共同宣言」を受けた学科・学生・校友会の交流の機会となった。

今本啓一学科主任から建築学科の最新状況の報告として、「リカレント教育」「理系女子」「国際化」の3つのキーワードが示された。2020年にはリカレント教育の実践メニューとして「社会人コース」が誕生、建築学科に入学する女性の割合は30～40%に達し、「存在感は既に6割から7割」（今本氏）という状況。国際化については今後への期待も含め「世界に飛び出そうという学生が増えている」（同）。

大学院インターンシップの学生報告では、殖栗瑞葉さん、平井雅也さん、千葉祥弥さんの3人が、意匠、構造、

環境の企業インターンシップについて報告した。

クロストーク「理大建築をどう強くする」は今本氏の進行で、教員側から郷田桃代氏、長井達夫氏、高橋治氏、実務者側から佐野吉彦氏、石橋敦之氏が参加して議論が行われた。

教員側から意匠・構造・環境の3領域について学科の最新動向を含めた話題提供を受け、その内容なども踏まえたうえで、理科大の建築をより強くするための議論が会場参加者を含めて交わされた。

神楽坂にいかにか先端の実務者を集めるか

複数の登壇者から出た「理大建築の強み」は「理科大学生の真面目さ」だ。それを基礎としたうえで「理科大の学生の真面目さは物事の基本として重要。一方で批判精神をもっと持ってほしい。これからは個性を持っていないと生きていけない時代。個性を持った人材が伸びやかに生きていける、許容される環境を



ALUMNI FORUM

鋼管杭トップ・プレートジョイント工法 エクス・ティーゼー

特許取得 第5702410号

ECS-TP

NETIS番号:KT-160127-A
ECS-TP工法(杭と柱の統合工法)

東京都建設局 新技術登録:1801006

**鉄骨構造物に革命を。
杭と柱の一体化。**

株式会社 三誠
SANSEI INC.

Tel: 03-3511-0211 Fax: 03-3551-0217 Mail: info@sansei-inc.co.jp
〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル 9F

北海道営業所 / 東北営業所 / 新潟営業所 / 北陸出張所 / 北関東営業所 / 千葉出張所 / 神奈川出張所 / 関西営業所 / 中四国営業所 / 九州営業所 / 沖縄営業所

エア-断震住宅

株式会社 三誠 AIR断震システム
http://www.airdانشin.jp/

究極の地震対策住宅 国土交通大臣認定取得 国住指第2036号

①通常時
地震センサーが常にゆれを監視しています。

②地震発生時
地震センサーが一定以上の地震波を検出すると即時にエア-ダンパーから空気が送り込まれ壁を浮かし、揺れを断ります。

大地震が来ても大丈夫
震度の揺れを1/30に軽減。エア-断震住宅なら、毎日安心して暮らせます。

SANSEI Holdings, Inc.

つくる必要がある」(郷田氏)

「米国の学生はつかかってくる。議論をふっかけてくる。そんな厚かましさををもってほしい」(会場参加の熊谷一清氏)などの意見が出た。

今回のクロストークのテーマでもある「連携」については、

「もっといろいろな連携をつくっていくべきで、そこには学び直し、リカレントが重要なキーワードになる。社会人コースもある神楽坂にいかにか先端の実務者を集めてくるかが重要になると思う」(長井氏)

「理科大は実務とアカデミックが近いのが魅力で先輩がどこにでもいて、社会とのつながりが強い。その関係をより強くしてほしい」(会場参加の学生)といった声が会場からも挙がった。

また理科大の建築が強みを発揮できる可能性が高いデジタル分野についても「BIM (Building Information Modeling)の研究は理科大らしい分野。カーボンニュートラルやサステナブル社会の実現のためにBIMをうまく使う。この分野で日本をリードする、世界をリードする人材輩出を目指したい」(佐野氏)などの提言があった。

記念行事後は理窓会倶楽部に場所を移して4年ぶり盛大な懇親会となった。懇親会では各委員会の委員長が新年度の活動に向けた抱負を述べるなど、久々なリアルの場ならではの盛り上がりを見せた。

企画総務委員長



近藤 剛啓
(こんどう よしひろ)
1984年卒

Comment

会員のコミュニケーションを促進するため会員名簿システムをWEB公開します。
学生の参加を促す学生会員制度を検討します。

活性化委員長



天神 良久
(てんじん よしひさ)
1982年卒

Comment

年間のお楽しみ催し会、会員でつながるクラブ活動・地域会・サークル等の見える化を行い、「こんな活動・サークルなら参加してみようか!」の輪を広げていける支援を行って行きます!

情報広報委員長



安達 功
(あだち いさお)
1986年卒

Comment

会報、ウェブサイトなどのツールを有効活用して同窓生を「情報」でつなぎ、校友会のサステナブルな活動を牽引します!

学科連携委員長



増村 清人
(ますむら きよと)
1981年卒

Comment

【先輩(学生)と語る】というイベントを学科連携委員会で毎年秋に行ってきました。
これを今年も継続したいと思います。学生の協力と意見をもらって、学生・OB双方に有意義な会にしたいと思います。



京都市競馬場 (2023)

人やまちを元気にする

安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐野吉彦 (1981年院卒)

おかげさまで2024年4月1日に創業100周年を迎えます。

国土交通省大臣官房官庁営繕部の仕事って？

築理会では、毎月“Future forum”と題して、OBOGから最近の取組・活動についてゲストスピーカーにご講演いただき、意見交換し、交流を深めるとともに情報共有する場を定期的に行っている。今回は国土交通省大臣官房官庁営繕部で業務をされている、下野恵理子さんに、実際の業務内容について7月12日、オンラインにてお話を聞いた。各内容・意見交換の文言は要約・編集し、一部内容を補足している。

官庁営繕とはどんな組織？

国土交通省大臣官房官庁営繕部（本省）と、地方支部局である北海道開発局、地方整備局、沖縄総合事務局の営繕部（地方整備局等）を総称して「官庁営繕」といいます。官庁営繕の役割は大きく3つあり、「官庁施設の整備」、「官庁施設の指導・監督」、「整備や保全に関する基準の設定」を行っています。

官庁施設ってどんな建物？

官庁施設（国の建物）は全国に約13,000施設あり、そのうち約4,000施設を官庁営繕が整備しています。例えば総理大臣官邸や霞ヶ関地区の中央官衙のほか、全国の地方合同庁舎や、国民の安全を守る海上保安署や地方気象台、地域住民の生活に密着した税務署やハローワークなど様々な施設があります。その他にも各省各庁が整備する特殊な施設や小規模施設などがあり、それらに対する「指導・監督」や「基準の設定」を行っています。

キャリアパスは？

総合職では、主に政策立案や基準の設定を行う本省と、主に事業推進を担う地方整備局等を往復しながらキャリアアップしていきます。一般職では、所属する地方整備局等を中心に様々な事業に携わり、技術的な知見を深めてキャリアを積んでいきます。

私自身は総合職採用で、近畿地方整備局（1～2年目）、復興庁出向（3～4年目）、本省（5年目）、関東地方整備局（6年目）、育児休業（7年目）、本省（8～9年目）という経歴を辿っています。



▲オンラインでの意見交換の様子



下野 恵理子

2015年修了 宇野研究室
現在国土交通省大臣官房官庁営繕部計画課保全指導室
官庁施設ストック高度化推進官

※以下は意見交換から出た内容を抜粋

理科大出身者はどのようなところで活躍していますか？

総合職と一般職のどちらにも出身者が多いのが理科大の特徴で、本省や全国の地方整備局等、他省庁など幅広く活躍しています。役職も係員から幹部クラスまで様々です。特に若手職員では理科大出身者が多く、ここ数年は、総合職で採用される3～5名前後のうち1名は理科大出身者という印象です。

どのような人が官庁営繕を志望しているのでしょうか

社会全体の為に働きたい、という志の人が多いように思います。同じ国土交通省の建築系の職種では住宅局の採用もありますが、設計や施工などの事業の現場に携わりたいという思いがある人は官庁営繕を志望すると思います。

頻繁に異動していますが、

官庁職員のキャリアとしては一般的なのですか？

2年前後での異動が一般的です。私はほぼ毎年異動しておりサイクルが短いですが、様々な仕事に関わることが自分にとってのやりがいに繋がっています。

国が率先して推進すべき取組として、

木造化やBIM活用の状況を教えてください

法改正により木材利用促進に関する新しい基本方針が決定され、新たに原則木造化の対象となった中規模以上の庁舎の木造化をいかに合理的に実現するかという課題に取り組んでいます。従前の基本方針で木造化すべきとされていた低層建築物については、ほぼ100%木造化を実現しています。

BIM活用については、取組の対象を徐々に拡大してきており、設計・施工・維持管理での一貫したBIM活用を行った試行事例が出てきたところ です。そこでの課題を洗い出し、更なる活用に向けて取り組んでいます。

粹なお江戸の坂の街

神楽坂のはじまりをデザインする

審査員長 = 相田武文 日本建築家協会関東甲信越支部新宿地域会名誉会長・芝浦工業大学名誉教授

審査委員 = 伊藤博之 工学院大学教授 / 小堀哲夫 法政大学教授 / 坂牛卓 東京理科大学教授

藤井由里 早稲田大学教授 / 石橋敦之 築理会会長 / 飯田公子 神楽坂おかみさん会代表

築理会の活動は内部に限らず、社会へ働きかける外部と連携した新しい取り組みを行っている。今回はその一つである新しい学生コンペの企画・運営について紹介する。

新宿みらいアイデアコンペティション

「神楽坂みらいアイデアコンペティション」は築理会と日本建築家協会関東甲信越支部新宿地域会が協働することで実現した学生コンペである。

このコンペは神楽坂の魅力を引き出す提案を学生から募り、よりよい街づくり構想を生み出すことを大きな目的としている。築理会会長、新宿区にキャンパスのある大学の教授が審査員になり、さらに神楽坂おかみさん会も地域代表審査委員として参加している。

課題の設定にあたり、企画委員会でオンライン会議を重ねて、条件や敷地計画などの内容を検討した。神楽坂おかみさん会にもヒアリングを行った結果、神楽坂の入り口で人々を迎え入れる焦点「神楽坂下交差点」を対象とし、古くなった公衆便所の建て替えを含めて、神楽坂らしさを感じ、賑わいを生むデザイン提案を求めたこととした。

さらに、敷地周辺の案内企画として「神楽坂の街歩き」も行い、明治から繁華街・花街として栄えた名残のある街の歴史やスケール感、魅力を直に感じる機会も設けている。多くの学生からの「神楽坂」をより魅力的にするアイデアに期待している。

コンペ要項概要

『神楽坂は、商店でにぎわい、程よいスケールと豊かな緑に恵まれ、そして江戸時代から続く歴史と文化を歩いて楽しめる坂の街です。しかし、飯田橋駅に降り立った時に、その魅力は十分には伝わってきません。神楽坂下交差点には公衆便所や東京メトロ出入口などがありますが、あなたのデザイン提案で、「粹なお江戸の坂の街」をもっと魅力的にしてください。その際、公衆便所の建て替えを必ず提案に含めてください。その他必要と思われる施設、ストリートファニチャーや看板など歩行者空間も自由に提案してください。神楽坂を素敵にするアイデアを期待しています。』

スケジュール

応募期間：2023年8月15日[火]～9月30日[土]

敷地周辺の案内「神楽坂の街歩き」：9月9日[土]

10:30-12:00 及び 14:00-15:30

入選作品発表：10月31日[火]

審査員と入選者による公開シンポジウム・表彰式：12月17日[日]

応募詳細について

「新宿みらいコンペティション」の応募詳細については以下のQRコードよりアクセスしてご確認ください。

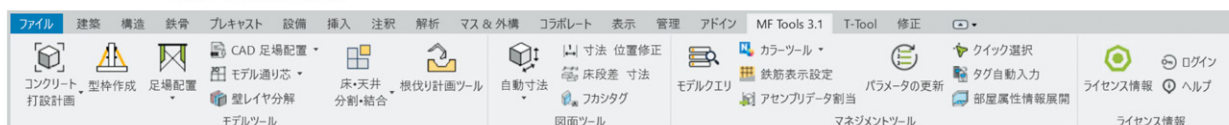


REVIT EXTENSION

MF
TOOLS 3.1

M&F TECNICA .INC

BIMマネージャーのための
BIMデータマネジメントツール



建築デジタル、マジで、やる。

M&F TECNICA

お問い合わせ
株式会社M&Ftecnica



第18回 ホームカミングデー

(東京理科大学・理窓会共催)

10月29日(日)

11:00~16:00

神楽坂キャンパス

建築会が講演会、
展示で参加します。

Back to
the Home
Coming Day

同封のHCDガイドブックあるいはホームページ
(<https://tus-alumni.risoukai.tus.ac.jp/>)を
ご確認ください。

■ 野田建築会・築理会・

建設共同企業体の合同展示：3号館351教室

吉田 周和 君 工学部一部 2022年度卒業制作築理会賞
受賞作品

作品名：外濠で満ちて～濾過水で外濠を満たし、心満たされる都市の居場所～

阿嶋 浩 君 社会人学部 2022年度卒業制作築理会賞
受賞作品

作品名：熱海湯ホテル

川辺 直哉 君 工学部一部 1994年卒川辺直哉建築設計事務所代表
作品名：寄居駅南口駅前拠点施設／

Yotteco (ヨッテコ)

令和3年公募型プロポーザル最優秀提案作品

■ 築理会 展示+講演会：3号館352教室

展 示：沖塩荘一郎教授を偲んで

パネル 10枚 + 最終講義 (ビデオ映像)

講演会：12:30～14:00 クロストーク

建築家：川辺直哉 + 坂牛卓 東京理科大学教授

14:30～16:00 講演会

宇野 求 東京理科大学嘱託教授

[講演会はライブ配信を行います]

参加 Zoom ミーティング (100名以内)

ミーティング ID : 923 2907 7287 パスコード : 417990

学生と卒業生交流イベント

「先輩と語る2023」を開催します。

▶11月25日(土) 葛飾キャンパス

▶「10年後のわたし」をテーマに、卒業後10年目のOBOGが中心となって、学生たちに職場やそれぞれの業界の仕事内容などをリアルに伝える。

2024年 築理会新年会を開催します。

▶2024年1月11日(木) 18:00～20:00
ポルタ神楽坂 6F 理窓会倶楽部

▶ぜひ皆さま、ご予約ください。

新任退任教職員紹介

2023年新任の先生



加藤 雅樹 准教授

2008.3 東京理科大学工学部第一部建築学科 卒業

2018.9 東京工業大学大学院博士課程 修了

2010.4-2023.3 大成建設株式会社技術センター



高 佳音 准教授

2003 B. Arch / University of Oregon

2008 M. Arch / Cranbrook Academy of Art

2015 東京大学大学院博士課程修了



崎山 夏彦 嘱託助教 (伊藤拓海研究室)

建築構造・材料

2017 東京理科大学 卒業

2022 東京理科大学大学院博士課程 修了



早川 亜希 嘱託助教 (栢木研究室)

建築計画・環境心理学

2010.3 椋山女学園大学大学院修士課程 修了

2021.3 名古屋大学大学院博士課程 修了



井黒 彬 嘱託補手 (インターンシップ担当)

2015 東京理科大学工学部第二部建築学科卒業

2018 Hochschule Weihenstephan-Triesdorf 修士課程修了

2018-2022 設計事務所勤務

2023年退任の先生

伊藤 裕久 教授

清原 千鶴 嘱託特別講師 (今本研究室)

栗田 哲 教授

森 健士郎 嘱託助教 (伊藤研究室)

小島 啓輔 嘱託補手

現場見学会(麻布台ヒルズ)を 計画しています。

鋭意計画中。詳細が決まり次第、ホームページで
お知らせします。



会費納入のお願い

築理会は皆さまの会費により活動しています。卒業生、在校生への多様な活動のために、会費納入をお願いします。築理会やりぼんの活動などに対する寄付も歓迎いたします。会費納入は振込用紙使用のほか、直接振り込みもできます。

編集長：安達 功

編集委員：中東 壮史、山岸 隆、近藤 剛啓、飯山 道久、
栢木 まどか、丸山 峰寛

編集後記：安達 功

神楽坂下の交差点を対象敷地とした「新宿みらいアイデアコンペ」のイベント企画として9月9日に実施した神楽坂の街歩きでは「神楽坂おかみさん会」谷口典子さんの名ガイドに導かれ、コンペに参加する学生さん達とともに神楽坂の魅力を見ました。